

APIRツーリズムシンポジウム

# 持続可能な観光に関する国際的な 潮流と施策について

国連世界観光機関（UNWTO）駐日事務所  
大宅 千明



**1. 持続可能な観光とは**

**2. 国連世界観光機関（UNWTO）**

**3. 持続可能な観光とプレイス・ブランディング**



# UN World Tourism Organization : 国連世界観光機関

- ・ **設立 : 1975年**
- ・ **本部 : スペイン、マドリード**
- ・ **加盟国等 : 160か国、6地域（準加盟）、2オブザーバー**  
**民間企業、研究機関等による500の賛助加盟員**
- ・ **地域事務所 :**  
アジア太平洋地域 奈良（日本）  
中東地域 リヤド（サウジアラビア）



**観光分野における国連の専門機関として、責任ある、持続可能で、全ての人アクセス可能な観光を促進**

- 観光政策における課題及び実用的な観光知識の議論の場の提供
- 世界の観光統計の収集、分析、予測

# UNWTO駐日事務所 Regional Support Office for Asia and the Pacific



UNWTO駐日事務所は、アジア太平洋地域における持続可能な観光の普及及び発展を通じて、同地域の社会経済発展と国際相互理解を促進することを目的として、日本政府により誘致

- 設立：1995年
- 場所：奈良（日本）
- 主な事業：
  1. 持続可能な観光地域経営の普及（調査、技術協力）
  2. UNWTOの活動の普及・情報発信
  3. パートナーシップの構築（世界観光倫理憲章の普及）
- 支援提供：
  - 観光庁
  - APTEC



# Section 1

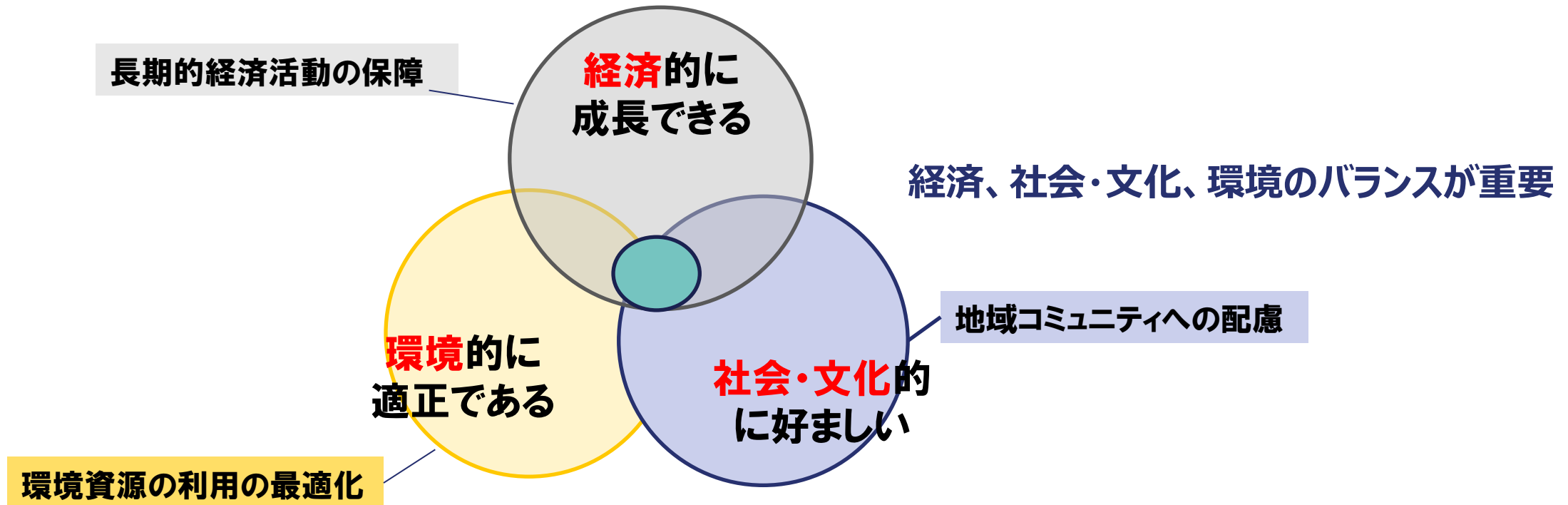
持続可能な観光とは

# 持続可能な観光とは

【UNWTOによる定義】

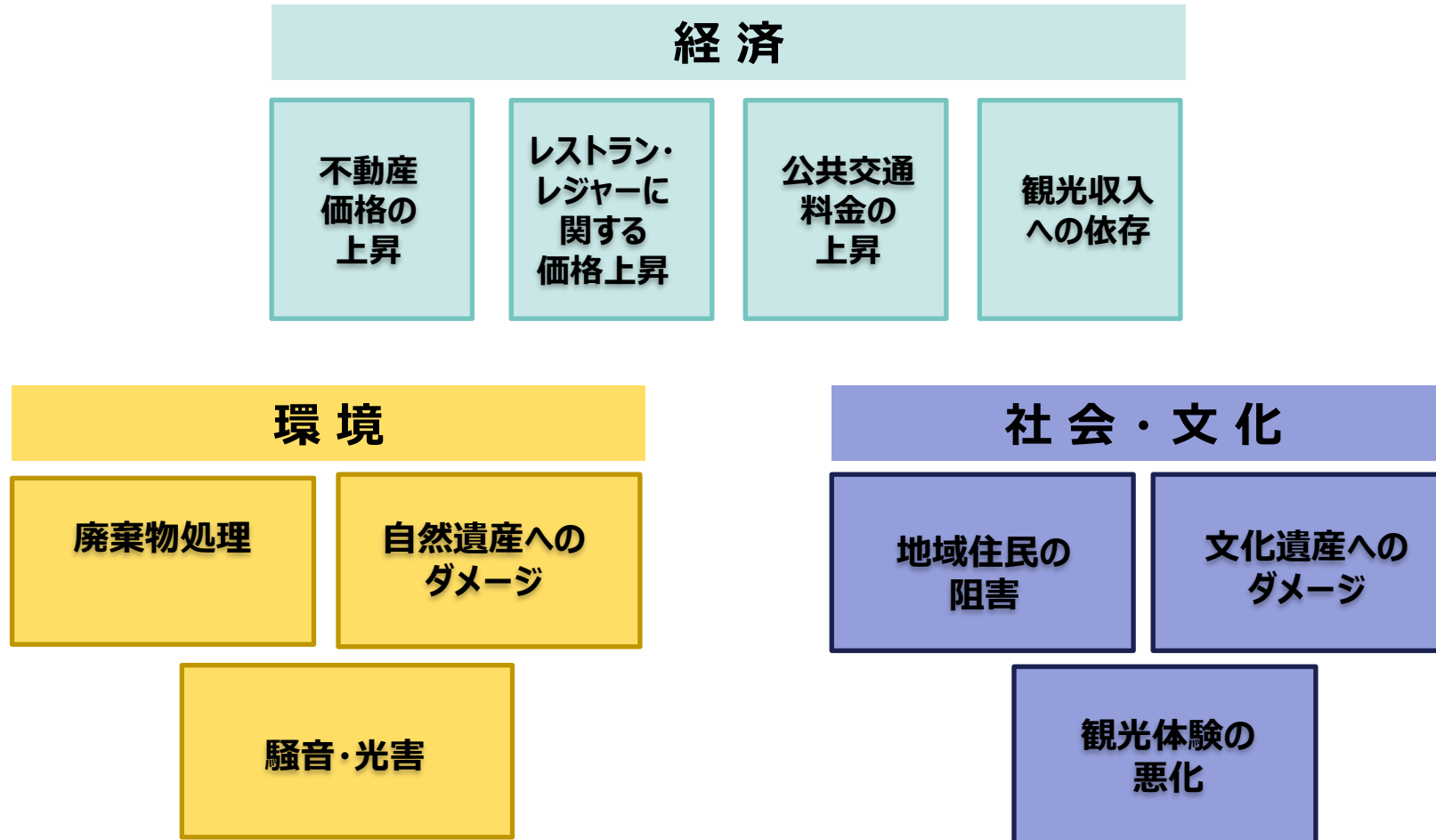
“旅行者、観光関連産業、自然環境、地域社会の需要を満たしつつ、**経済面・社会面・環境面**の影響も十分考慮に入れた観光”

(UNWTO 観光地のための持続可能な観光指標・ガイドブック, 2004)



# 持続可能な観光とは？

経済、社会・文化、環境のバランスが崩れると…



**観光地の持続可能性が損なわれ、観光地としての魅力が低下する**

# 観光とSDGs

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



## 観光は全てのSDGsに貢献できる

**目標 8 . 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する**

8.9 2030年までに、雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる**持続可能な観光業**を促進するための政策を立案し実施する

**目標 12. 持続可能な生産消費形態を確保する**

12.b 雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる**持続可能な観光業**に対して持続可能な開発がもたらす影響を測定する手法を開発・導入する

**目標 14. 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する**

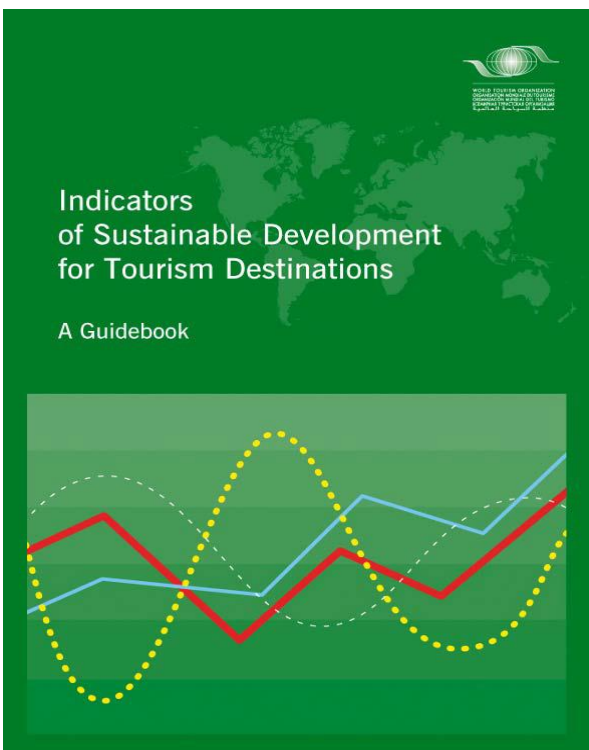
14.7 2030年までに、漁業、水産養殖及び**観光の持続可能な管理**などを通じ、小島嶼開発途上国及び後発開発途上国の海洋資源の持続的な利用による経済的便益を増大させる



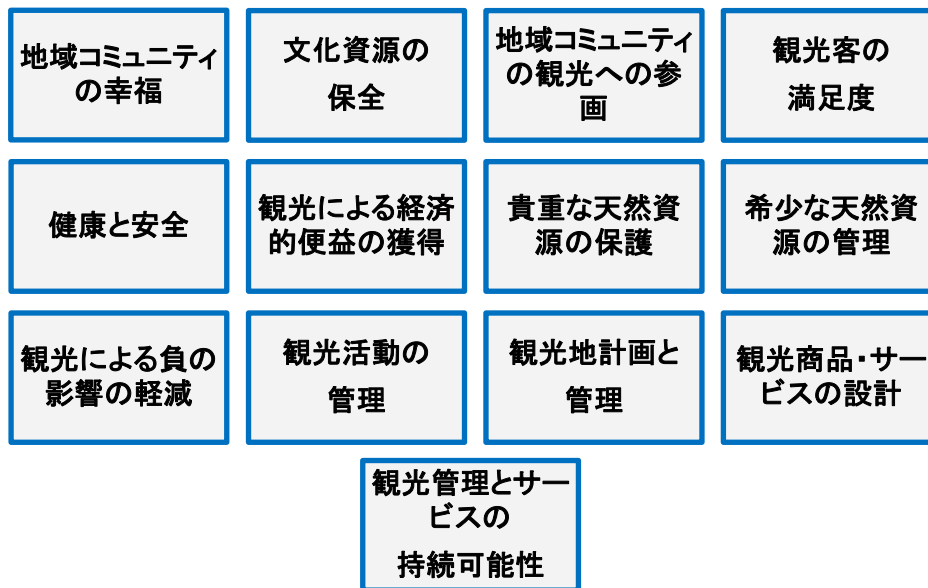
# UNWTO 持続可能な観光における指標

(Indicators of Sustainable Development for Tourism Destinations)

- 20カ国、63名の専門家が参画して**2004年**に開発
- 13のテーマ別の具体的指標、18の地域特性に応じた指標を提案



## 13のテーマ別の具体的指標



## 18の地域特性に応じた指標



# GSTC(Global Sustainable Tourism Council)



## グローバル・サステナブル・ツーリズム協議会（GSTC）

持続可能な旅行及び観光の基準を制定、管理する国際非営利団体。国際基準の設定、管理のほか、持続可能な地域（デスティネーション）の支援、地域や業者のマーケットアクセス機会の推進、トレーニングや教育等を実施

### <指標開発の背景>

エコツーリズムに関する人気の高まりに伴い、宿泊施設やツアーオペレーターへの認証制度が乱立し、信頼できる評価基準へのニーズが高まったことから、UNWTO指標などをベースに、国際的な評価基準の検証に着手

### <指標開発の沿革>

- 2007年 持続可能な観光の推進と持続可能な観光の国際基準を作ることを目的にGSTC発足
- 2008年 GSTCによる**観光産業（宿泊施設、ツアーオペレーター）**向けの指標（GSTC-I）開発
- 2013年 GSTCによる**観光地（デスティネーション）**向けの指標（GSTC-D）開発
- 2019年 GSTCによる**観光地（デスティネーション）**向けの指標（GSTC-D Ver.2.0）開発

### <GSTC-Dのモニタリング区分>

- A: 持続可能なマネジメント
- B: 社会経済のサステナビリティ
- C: 文化的サステナビリティ
- D: 環境のサステナビリティ



# GSTCと認証団体との関係

自治体や観光関連事業者等は、持続可能な取組を促進し、デスティネーション向け・事業者向けの認証制度を持つ認証団体（グリーンデスティネーションズ、トラベライフ等）に申請をして認められれば、表彰を受けることができる。



※ 「日本版持続可能な観光ガイドライン」より抜粋、一部加工  
最新情報では、「Vireo」も観光地向けの認証団体となっている

# 日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)



- **持続可能な観光地マネジメントを進める上でのガイドライン**として2020年6月に観光庁がUNWTO駐日事務所とともに策定
- **日本の特性を各項目に反映し、GSTCによる観光地向けの持続可能な観光の国際基準「GSTC-D2.0（GSTC Destination Criteria）」に準拠した指標として開発**
- 2020年度より、観光庁において全国の自治体、DMOからモデル地区を選定し、普及促進を図っている



# 日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）の内容

日本版持続可能な観光ガイドラインは、Aマネジメント、B社会経済、C文化、D環境の4分野から構成されており、**合計47の大項目・113の小項目**が設定されている。

## A. 持続可能な マネジメント

大項目数:16 小項目数:41

### A4 観光による負荷軽減のための財源

観光による負荷(オーバーツーリズム関連の課題等)軽減のための財源が確保されていること

- ① 目的を明確にした財源を確保、運用していること

12 つくる責任  
つかう責任



17 パートナリシップで  
目標を達成しよう



## B. 社会経済の サステナビリティ

大項目数:8 小項目数:24

### B3 地域事業者の支援と公正な取引

地域事業者の支援と公正な取引の実現に取り組んでいること(観光の効果がおよぶ地元の職人、農業者等も対象とする)

- ① 地域の特産品やサービスの利用を促進していること
- ② 地元の観光関連の中小企業が、より市場に参入しやすくなるよう支援していること



8 働きがいも  
経済成長も



12 つくる責任  
つかう責任



## C. 文化的 サステナビリティ

大項目数:8 小項目数:19

### C3 無形文化遺産

無形文化遺産の保護に関する計画や規制等があること

- ① 無形文化遺産のリストがあること
- ② 地域の行事(祭り等)の保存に努めていること
- ③ 伝統文化の次世代継承を支援するための取組があること

11 住み続けられる  
まちづくりを



12 つくる責任  
つかう責任



## D. 環境の サステナビリティ

大項目数:15 小項目数:29

### D7 省エネルギー

観光地域におけるエネルギー消費量の削減と効率性の改善及び再生可能エネルギーの使用について目標値を定めていること

- ① エネルギー消費量を定期的にモニタリングし、削減するための取組があること
- ② 化石燃料の依存度を低減し、再生可能エネルギーの使用を促進する政策や取組があること

7 エネルギーもみんな  
そしてクリーンに



# 「観光を活用した持続可能な地域経営の手引き」

- 自治体・DMO等の担当者向けに、観光を活用した持続可能な地域経営を実践するために、必要となる「**取組の進め方（実現ステップ）**」に沿って「知識（ノウハウ）」、「能力・技術（スキル）」をとりまとめたもの
- 2022年にUNWTO駐日事務所が（一財）運輸総合研究所、観光庁と連携して作成

## <想定されるステップ>

- ① **地域のなりたい姿を共有し、そのために解決すべき課題を特定**
- ② **課題を解決する取組を検討し、実施**
- ③ **指標を活用して影響を見える化し、取組を改善**



これを繰り返し、地域のなりたい姿を実現

## 実現ステップ

（観光を活用した持続可能な地域経営に取り掛かる準備）

- ✓ 観光を活用した持続可能な地域経営に取り組む意義・期待・取組の目的の明確化
- ✓ 既存の関連計画・施策・課題／指標・データの整理
- ✓ 他部署・関連事業者の参画活動

実現 ス テ ッ プ	地域のなりたい姿と課題を明確にする  ステップ群A	ステップ1 対象地域を決める ステップ2 利害関係者を特定し、参画させる ステップ3 観光資源と「現状の課題」を洗い出し、把握する ステップ4 なりたい姿を共有し、「今後の課題」を明確にする
	解決する課題を特定し、指標を具体化する  ステップ群B	ステップ5 重点課題を特定し、合意を形成する ステップ6 重点課題を解決する取組を検討し、共有する ステップ7 重点課題を踏まえて指標を検討する ステップ8 指標を特定し、計測手法を具体化する
	指標を計測し、分析、公表、改善する  ステップ群C	ステップ9 データを収集し、指標を計測する ステップ10 指標の推移を分析し、取りまとめて公表する ステップ11 指標や経営体制を見直し、改善する

## Section 2

## UNWTOの取組

# 持続可能な観光地域づくりネットワーク(INSTO)



- INSTOの目的は、「計測できないものは、改善できない」という考えの下、エビデンスに基づいた政策形成を実現すること
- 地域レベルで観光による経済、文化・社会、環境面における影響についてモニタリングを実施



客観的データに基づき、問題が起こる前に、観光計画や戦略を立てることが可能

※現在、中国(8)、スペイン(6)、インドネシア(5)、カナダ(2)などから36地域が加入



# 持続可能な観光地域づくりネットワーク(INSTO)

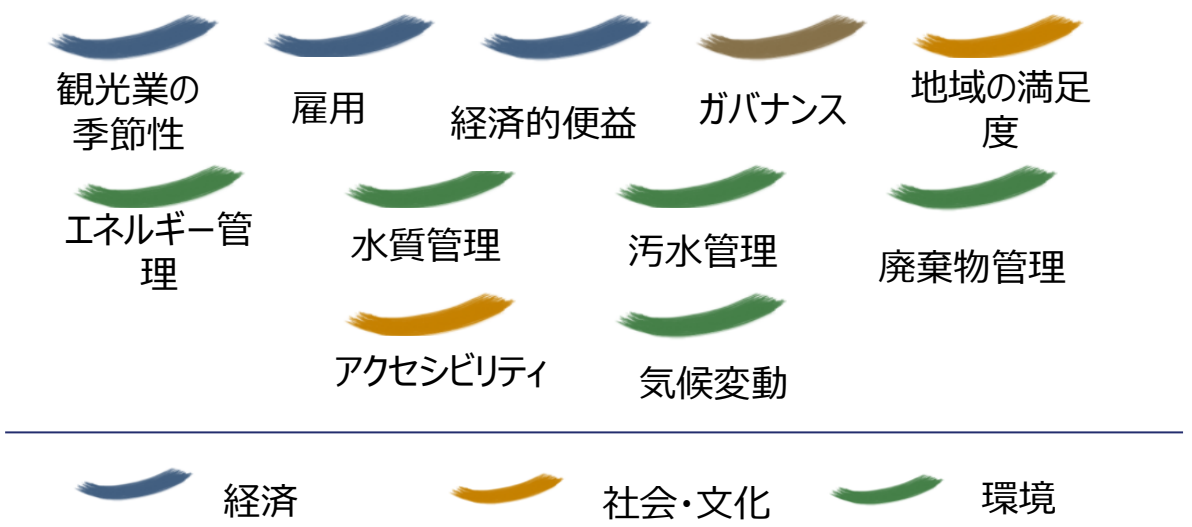
- 地域の目指す方向性に向けて観光を発展させるため、地域の関係者が一丸となって取組を行うことを重視
- 地域レベルで議論するプラットフォームとして、**地域の関係者による協議会（ワーキンググループ）** 組成がINSTO加入の必要条件
- 「経済」、「社会・文化」、「環境」の3分野について11の指標を設定し、継続的にモニタリングを行うことで持続可能な観光を推進する仕組み

## 【構成例】



## 【指標】

※どのような指標を設定するかは地域の裁量に任されている



# カナダ（トムソン・オカナガン）の事例

## 概要

- ・カナダ・ブリティッシュコロンビア州
- ・湖に面した丘陵地帯
- ・面積：71,600 km<sup>2</sup>
- ・人口：612,943人

## 観光資源

- ・自然・野生生物公園
- ・（カナダの夏の遊び場）
- ・アドベンチャーツーリズム
- ・先住民文化

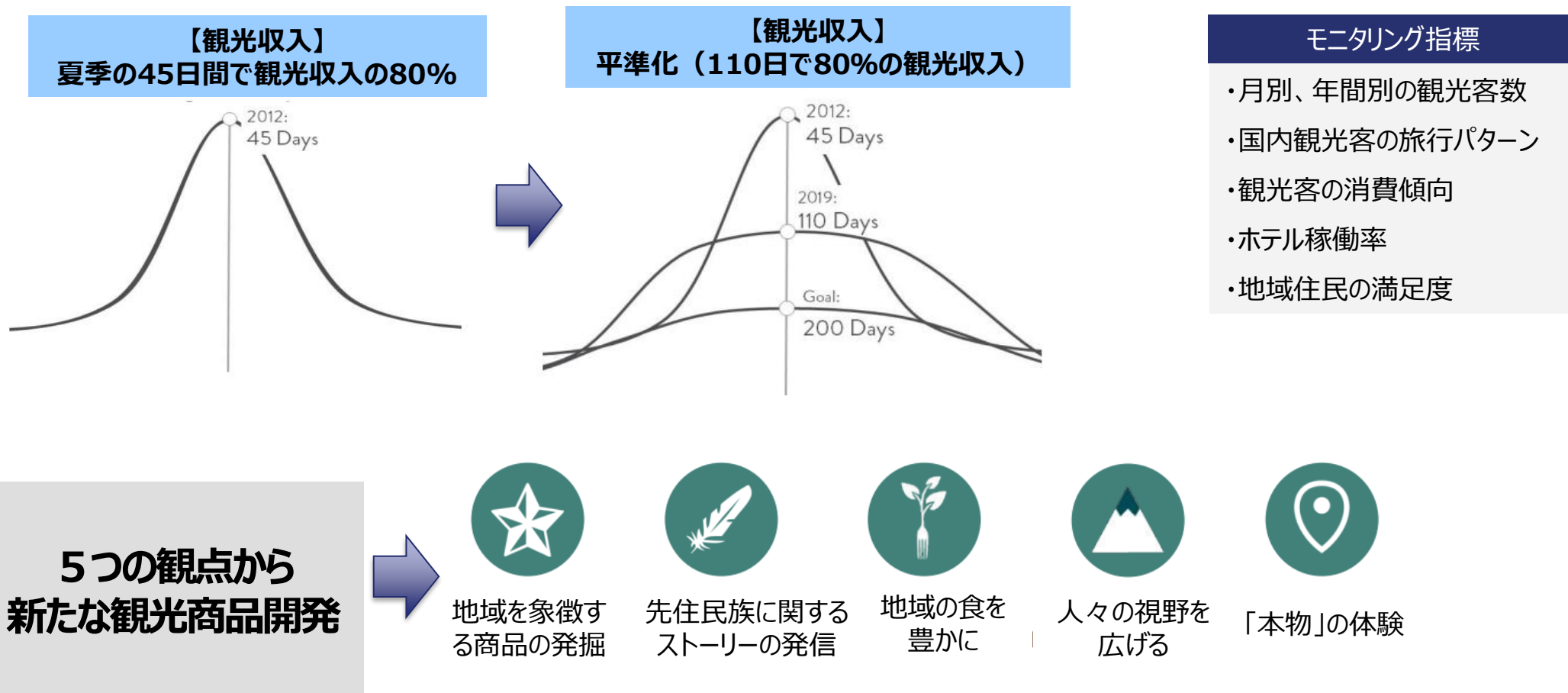


## 観光の課題

### ① 季節性 ② アクセシビリティ ③ 先住民の支援、住民生活との調和

- DMO（トムソン・オカナガン観光協会）が中心となって、州政府、地域の大学、少数民族協会等と連携してワーキンググループを組成し、2019年にINSTOに加入
- 「①季節性」、「②観光資源の点在」、「③先住民の支援、住民生活との調和」、といった課題に応じた指標を設定し、モニタリングを実施

## 1. 季節性の問題： 7～9月に観光客が集中



## 2. アクセシビリティの改善

- 平均寿命の伸長に伴い、アクセシビリティの改善は競争力を左右
- ISOはアクセシブルツーリズムに関する基準を2021年7月に発表

### ①アクセシビリティに関する指標

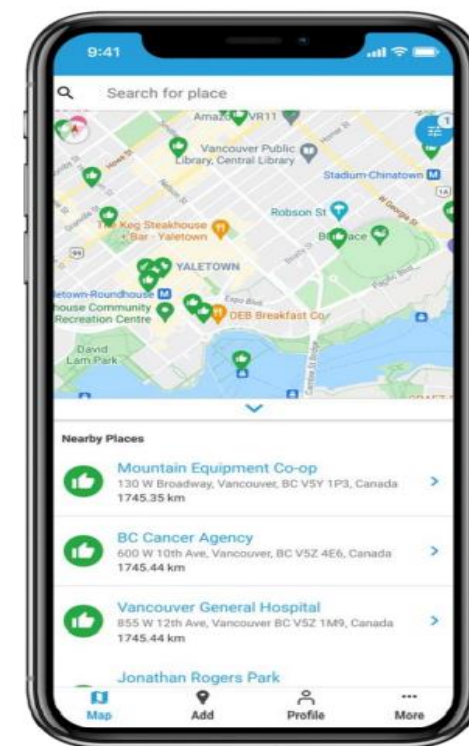
- 障がいのある観光客用の駐車場の有無
- 点字の案内
- 観光ガイドの障がい者対応訓練の有無

アクセシビリティに関する情報を格付けし、アプリを活用して消費者に提供

### ②アクセシビリティの専門家（元パラリンピック選手）の雇用



### アプリ「アクセシブル・ナウ」





## 3. 先住民支援、住民生活との調和

現在の決断が7世代にわたり影響を与えるという先住民の哲学に基づき、「誓約」を作成し、観光客・観光事業者に署名を促す



7 AFFIRMATIONS FOR 7 GENERATIONS  
Thompson Okanagan Regional Pledge

### 7つの誓約

①本質	その土地の歴史に裏付けられた本質（Soul）を発見しよう
②そっと歩いて	あなたは、この場所、空気、水を守る人になります
③よいお隣さんになろう	私たちは皆さんに寛いでほしい。皆さんも同様に地域への敬意を忘れないで
④安全に旅をしましょう	心のまま、賢く冒険してください
⑤自然と調和した生活を	野生生物の掟を守り、自然と調和することは、幸福感をもたらします
⑥地域の産品を選ぼう	地元で作られた工芸品や製品を購入しよう
⑦他の人にも教えよう	価値のあることを共有しよう

# UNWTOの取組：グラスゴー宣言



## Glasgow Declaration Climate Action in Tourism

- 2021年のCOP26（英国グラスゴー）にて発表
- 観光分野における気候変動対策を加速し、今後10年間で観光部門でのCO2排出量を半減させ、**2050年までに「ネット・ゼロエミッション」を達成**することを目的
- 署名団体は、署名より**12か月以内に気候変動対策計画を策定**し、同計画に沿って順次、具体的に取り組む。また、中間・長期目標に対する進捗状況を毎年公表
- **全世界で700以上**のディステイネーション（国、自治体、DMO）、団体、民間企業が参加
- 日本における署名団体は**北海道ニセコ町、一般社団法人JARTA、春陽荘**

# UNWTOの取組：世界の観光とプラスチックに対する取組

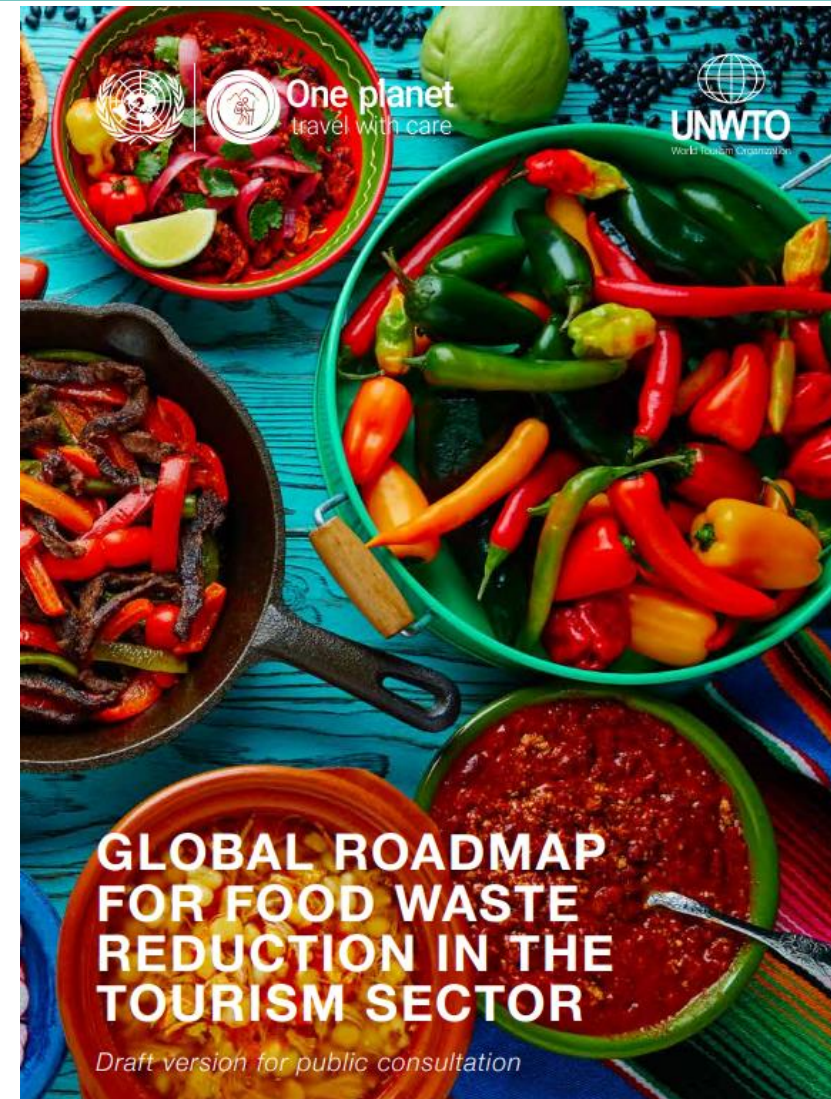


## Global Tourism Plastics Initiative

- 2021年1月開始
- 不必要な**使い捨てのプラスチック製品の使用を廃絶し、再利用やリサイクル、コンポスト（堆肥化）可能な包装や製品への転換**を促進することが目的
- 署名団体は、2025年までに以下の取組を行う
  - 使用するすべてのプラスチック包装と生產品のリサイクル量を増やすための行動を起こす。
  - プラスチックのリサイクル率とコンポスト（堆肥化）率を上げるために協力し、投資する。
  - これらの目標に向けた進捗状況について、毎年公表する 等
- 全世界で**100以上**のディスティネーション（国、自治体、DMO）、団体、民間企業が参加

# UNWTOの取組：観光セクターにおける食品廃棄の削減に向けたロードマップ

- 2022年12月 第7回UNWTOガストロミーテュリズム世界フォーラム（日本・奈良）において発表
- 食品廃棄の削減に関する優良事例や実用的なアドバイスに焦点を当てたフレームワークを提供し、観光における食品廃棄の削減を促進
- フレームワークは、以下の手順を含む
  - 食品廃棄の削減目標（2030年までに50%）、食材の転換目標（2030年までに100%）を設定する
  - 1年間の廃棄量を計測し、報告する
  - 実行計画を策定し、①運営、②来訪者の参画、③サプライチェーンの参画の観点から、具体的な削減方法を定める





# Section 3

持続可能な観光と  
プレイス・ブランディング

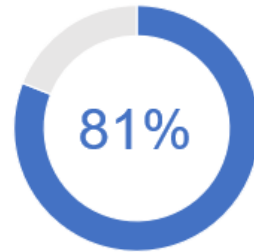
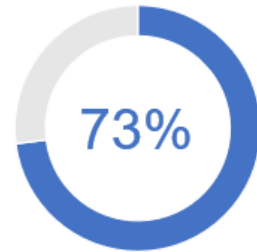
# コロナ後の旅行トレンド（Booking.com）

-32カ国と地域の3万人以上の旅行者を対象に調査（2022年6月公表）-

- 「サステナブルな旅は自分にとって重要である」

- 日本の旅行者

- 世界の旅行者



- 「今後1年間において、よりサステナブルな旅を心がけたい」

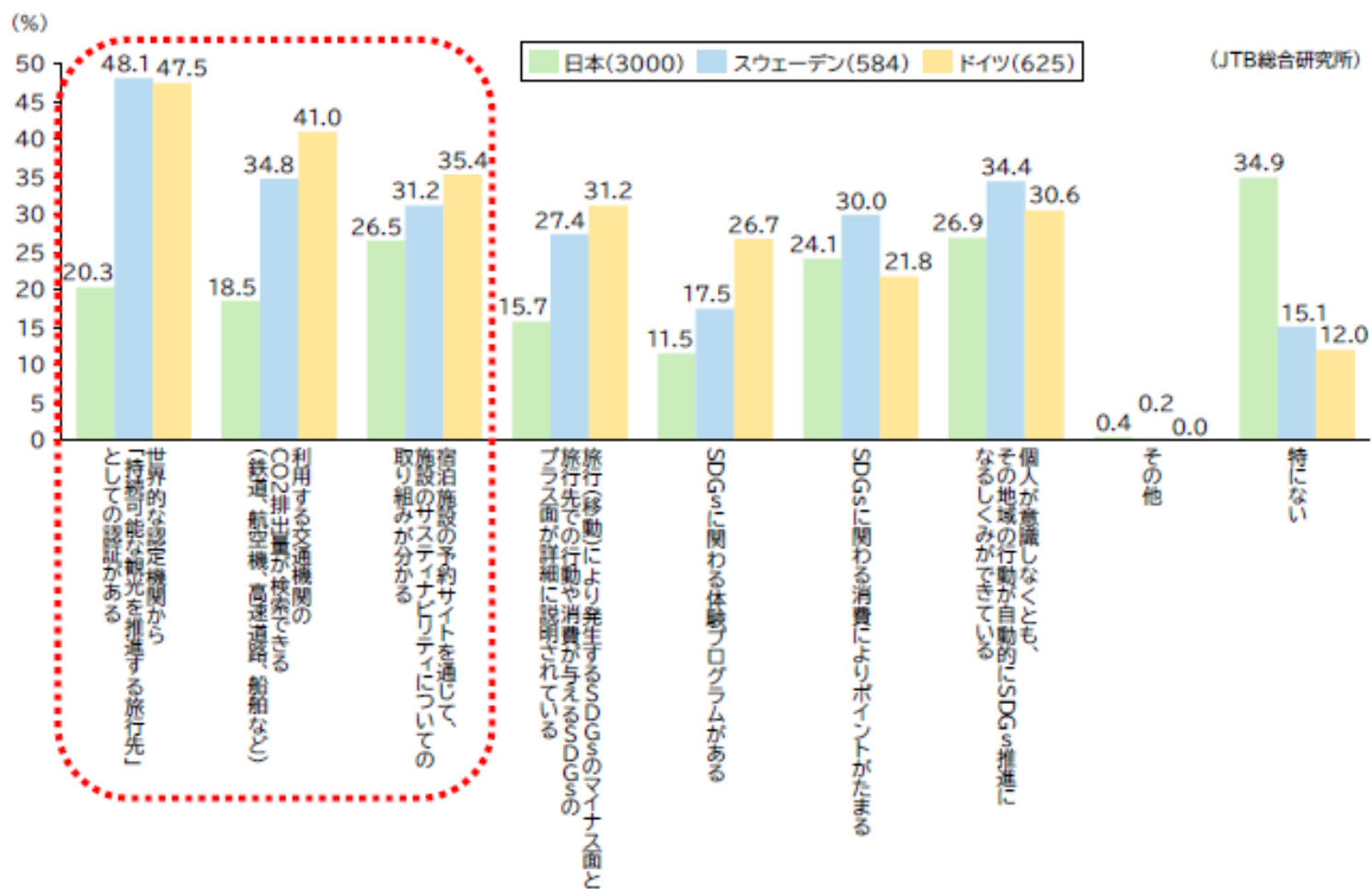
- 世界の旅行者の71%、日本の旅行者の46%

- 「今後1年間において1回以上はサステナブルな宿泊施設に滞在したい」

- 世界の旅行者の78%

# SDGs に対する旅行者の意識比較（欧州と日本）

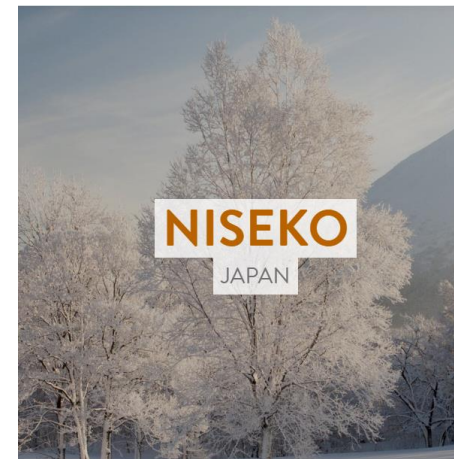
(図表 12) 旅行中に SDGs を意識するために、地域や商品サービスの提供者側に希望すること



# ルーラルツーリズム : Best Tourism Village



- 持続可能な開発目標（SDGs）に沿って、観光を通じて文化遺産の促進や保全、持続可能な開発に取り組んでいる地域を認定するプロジェクトで、2021年から開始
- 観光を通じて、地域の景観、知恵、生物・文化の多様性、産業といった、地域が持つ様々な側面の価値の向上、保護を促進することを目指し、地域の優良事例を集めることが目的
- 選定された地域は、Best Tourism Villagesのロゴを掲示することが可能になるとともに、優れた取組を行う地域同士や専門家とのネットワークに加入できる
- 日本からは、2021年に**北海道ニセコ町**、**京都府美山町**（南丹市）がBest Tourism Villagesに選ばれるとともに、**北海道美瑛町**がアップグレード・プログラム（選定には至らないものの優れた取組であり、改善点について専門家のアドバイスを受けられる地域）に選定された



# ガストロノミーツーリズムと持続可能な観光

## UNWTOのガストロノミーツーリズムの定義

- 食や食材に関連した観光客の体験・活動
- 本格的、伝統的又は革新的な料理体験と併せて、地域の産地訪問、食に関するフェスティバルへの参加、料理教室への参加など含む場合もある

Reference: UNWTO Tourism Definitions, UNWTO, 2019

## 観光地にとってのガストロノミーツーリズムのメリット

- ①地域の差別化がしやすい（特性を発揮しやすい）
- ②訪問者に新たな価値観・体験を与えられる
- ③観光資源が乏しい地域でも始められる
- ④ストーリーが語りやすい
- ⑤再訪意識を促進する



**7** UNWTO  
WORLD FORUM  
ON GASTRONOMY  
TOURISM  
12-15 DECEMBER 2022



2023年2月10日開催  
※ 3月中下旬頃アーカイブ公開  
<https://www.green-symposium.info/>

# グリーンな観光・国際観光シンポジウム

～ 豊かな地域社会の実現に向けた地球環境配慮型観光への挑戦 ～

主催：観光庁/国連世界観光機関（UNWTO）駐日事務所



## 【事例発表】

キャロライン・アンダーソン氏 ハワイ・ツーリズム・オーソリティ プランニング・ディレクター  
濱川 明日香氏 一般社団法人Earth Company 代表理事  
遠藤直人氏 登府屋旅館（山形県）代表取締役  
石松 昭信氏 阿蘇市 経済部まちづくり課 課長  
船橋 慶延氏 ジオファーム八幡平（岩手県）代表 企業組合 八幡平地熱活用プロジェクト  
濱中 玲子氏 合同会社とくと 代表社員

# Thank you!

国連世界観光機関(UNWTO) 駐日事務所

<https://unwto-ap.org/>  
[info@unwto-ap.org](mailto:info@unwto-ap.org)